



熊谷市立玉井中学校

校長 今村 美己

一 本校の沿革（二十周年記念誌参照一部抜粋）

昭和二十二年開校、玉井小の片隅に仮住まい。校舎も机もない中、「ゴーハラ山」に校舎ができることになった。足を踏み入れることができないようなところがあった。さんあり、「あんなどころに学校ができるのか、しかし一日も早く校舎を」という思いから、地元の皆さんと、全生徒・職員でシャベル、のこぎり、カマなどをもって人力で開拓をした。木を切り、根を掘り、石を運び、土を平らにならすという作業が毎日続いた。

そうして昭和二十五年に校舎建築起工式が行われた。その後、昭和四十一年体育館、昭和四十五年プール竣工と続く。さらに、昭和五十四年本校舎改築竣工、平成三年新体育館竣工、平成八年新校舎竣工、令和五年プール解体。現在に至る。

二 校章・校歌制定に係るエピソード

1 校章 制定年 昭和二十二年九月九日

図工主任だった小林啓三先生が考案。校章の周りには桜の花びら。開校当時は玉井小の桜の木の下で勉強する「青空教室」だったので、桜の花びらを四枚。その先が八つあるのは、四方八方の幸福を願うという意味。花びらの外枠をなぞると玉井の「井」の字。4枚の花びらの間には「まが玉」。玉井寺（ぎよくせいじ）の井戸から「玉」が出るという言い伝えから。「中」の字の周りの黒い点々は、玉井学区の方たちに支えられ、玉井中は生徒、職員とともにあることを表した。

2 校歌 制定年 昭和三十七年十一月三日

第3代校長、太田泰治先生が友人の宮澤章二先生に歌詞を、そして東京に向いて作曲家、大中恩先生にメロディをお願いした。「校歌がいつでも、どこでも、そしていつでも母校の心の絆として歌われるような名曲を作ってくれますように」という太田校長の願いが込められている。

玉井中学校校歌

♩=112 さわやかに

宮沢章二 作詞
大 中 恩 作曲

びあうわれーら はなのとしも たた
かきのゆめーは たくまにたつ た
ぼうのにじーは ここに

1. た ま なみずんが あはれわた一てりり
2. のびまきさんのあはれわた一り
3. すまみのそらのあはれかきーり

ま いちうが く まどのひかりにとれき
ま いちうが く あいふるさあれかか

えきのひとももきーよーらかてりよー
るよはこおのてーるーかきりきー
ねにほおのてーるーかきりきー

としやうへいやはのをかはなーる
のいふらあにすにつーく
くあらい

玉井中学校校歌
宮沢章二作詞
大 中 恩 作曲

一 玉なす水に洗われて
知恵のひともきよらかに
呼び合うわれら花の友
玉井中学窓のひかりに
関東平野の風は鳴る

二 指さす山河晴れわたり
生きろよろくび野に満ちて
若木の夢はたくましく
玉井中学愛のふるさと
歴史の息吹を明日に継ぐ

三 真澄の空のあるかぎり
胸に炎の照るかぎり
希望の虹はここに立つ
玉井中学玉の幸あれ
輝く未来とにないつつ

浩霄書